日本赤十字豊田看護大学
JAPANESE RED CROSS TOYOTA COLLEGE OF NURSING

ITOSUGI

いとすぎの丘

卒業式

入学式

救護員研修

国家試験壮行会

Pick Up

まだ肌寒い2月上旬、看護師国家試験に臨む四年生に向けての壮行会が行われました。会の最後には教職員一人ひとりから激励の言葉が送られ、学生たちは合格への決意を新たにしていました。皆さんが将来看護師として活躍されることを期待しております。

■ 卒業式、入学式
■ 大学行事
救護員研修
研究の窓
Academic Library
■ Information

発行日／2016年5月　Vol.23

新学長の言葉

鎌倉　やよい

今年度から第4代学長に就任いたしました鎌倉でございます。本学では初めて看護職が学長となりました。まずは、ごあいさつを兼ねて自己紹介をさせていただきます。

私は、愛知県立看護短期大学を卒業後、愛知県がんセンター病院に臨床看護師として10年間、愛知県衛生部において看護行政事務を3年間、その後母校に赴任し、成人急性期看護学を専門分野として、愛知県立看護大学、愛知県立大学に31年間勤務してきました。愛知県立看護大学では研究科長を4年間務め、その間大学改革、県立大学との統合、大学院看護学研究科博士後期課程の開設等を担当してきました。統合後は看護学部長・看護学研究科長として3年間務め、引き続き副学長として4年間務めました。

看護短期大学在職中に慶應義塾大学通信教育課程に入学し、そこで心理学の一分野である行動分析学と出会い、坂上貴之先生に師事して実験的研究に取り組んできました。その後、愛知淑徳大学大学院の故杉本助男先生に師事し、行動分析学に加えて生理心理学を学び、嚥下（飲み込むこと）時の筋電図や熱センサーによる呼吸軌跡を測定した嚥下と呼吸の協調に関する研究、さらに博士後期課程では高齢者の嚥下障害を予防する援助技術の開発をテーマに研究して参りました。研究テーマとして、摂食嚥下リハビリテーションに関する研究、周術期の看護に関する研究、心理学領域のセルフマネジメントに関する研究が主要な領域です。

学会活動としては、これまでに第11回日本摂食嚥下リハビリテーション学会学術大会（2005年）、第34回日本看護科学学会学術集会（2014年）を会長として開催し、現在、日本摂食嚥下リハビリテーション学会副理事長、日本看護科学学会理事として活動しています。その他、日本行動分析学会、日本看護研究学会、日本がん看護学会、日本老年看護学会では代議員を務めています。また、日本看護協会への摂食嚥下障害看護分野の特定申請、愛知県看護協会における認定看護師教育課程の開設にも尽力して参りました。

日本赤十字社とのかかわりとしては、学生の臨地実習や研究実施を通して、名古屋第一赤十字病院と名古屋第二赤十字病院に大変お世話になりました。私が母校の愛知県立看護短期大学に助手として赴任した際に、学生の実習指導を担当した病院が名古屋第一赤十字病院であり、助手・講師時代の13年間、外科病棟での実習指導をとおして周術期看護の経験を重ねることができました。また、名古屋第二赤十字病院では、片岡笑美子副院長にご尽力いただき、共同研究を行って成果を論文として報告してきました。両病院とも、私にとって大切な病院であり、育てられたとの感があります。両病院をはじめとして、中部八県の赤十字病院とも、今後ますます良好な関係を築きたいと思います。

さて、私はこれまで摂食嚥下障害に関わってきましたので、昨年度まで実施してきた研究「地域高齢者の摂食嚥下障害予防サポートシステムの構築と評価」についてお話ししたいと思います。日本は2007年には超高齢社会に突入し、今や国民の4人に1人が65歳以上の高齢者です。2000年に介護保険制度が導入され、要介護状態の発生・悪化の予防を目的に2004年から介護予防事業が始まりました。厚生労働省は、高齢者の生活機能を向上させるために、口腔機能の改善を求めています。誤嚥が肺炎を引き起こすため、高齢者の摂食嚥下機能を維持することは、介護予防にとって重要な課題といえます。さらに、2014年には介護保険法が改正され、地域包括ケアシステムとして、高齢者の社会参加によって介護予防を促進する方針が示されました。

このような背景のもと、科学研究費補助金の助成を受けて、2012年から尾張旭市、尾張旭市歯科医師会と共同して、地域高齢者の摂食嚥下障害予防サポートシステムを構想してきました。具体的には、1)摂食嚥下障害予防の体操開発など啓発活動の実施、2)地域高齢者がリスク評価尺度を用いて摂食嚥下機能を自己判定すること、3)リスク有と判定された高齢者に対して、二次スクリーニング検査を実施すること、4)結果に基づき、要観察者、要医療者を選別することです。

これまで、成果を出してきましたので、本学ヘルスプロモーションセンターなどの事業として、この豊田市においても活用できればと考えています。研究は社会に還元されることが重要であると同様に、大学も社会の要望に応えることが求められます。本学は赤十字理念に基づく建学の精神のもと、実践の科学としての看護学を追及し、看護実践能力を備えた専門職を育成したいと思います。

修了生・卒業生のみなさんへ

学長　安藤　恒三郎

大学院修了生・看護学部卒業生のみなさん、卒業おめでとう。みなさんに授与された「修士」「学士」の学位は，みなさんの学業の証です。ここに至るみなさんの努力に心から敬意を表します。

修了生のみなさんは、仕事を続けながら研究論文に取り組むという厳しい環境の中で、立派な成果をあげられました。今後それぞれの専門分野の指導者として医療現場等で活躍されることを確信しています。

今年は丙申（ひのえさる）の年です。干支（えと）は樹木の成長に例えられますが、丙（ひのえ）は、形が明らかになってくる頃、申（さる）は、果実が成熟して固まっていく状態と言われており、これまでの頑張りが形になっていく年と言えます。長い勉学を終え、本学を巣立っていくみなさんにとって、まさにふさわしい年と言えるのではないでしょうか。本学で学んだことに誇りをもって、それぞれの夢の実現に向かって自信をもって一歩を踏み出してください。卒業生のみなさんには、私の好きな言葉「誠」を贈ります。誠という漢字は「言、いう」と「成、なる」から出来ています。「言ったことを成す」、文字通り相手を裏切らないということです。社会人１年生の看護師として、ぜひ心しておいていただきたいと思います。

大学生活を振り返って

看護学部第９期卒業生　渡辺　麻衣華

大学での勉強は、理解に時間がかかる内容も多く、時には落ち込んだり、辛くなったりすることもありました。しかし、先生方は、私たちが納得のいくまで分かりやすく説明してくださり、私たちが理解できたときには先生も一緒に喜んでくださいました。また、悩んでいるときに声を掛けてくれ、分からないところは一緒に悩み、話し合うことのできる仲間が周りにいてくれたことで、何度も支えられ、乗り越えることができました。看護学実習では、初めは疾患ばかりに目がいってしまうこともありましたが、徐々に患者さんの行動や言葉の裏にある意味を感じ取ることができるようになってきました。毎日夜遅くまで看護記録を書き、仲間と連絡を取り合って支え合い、寝不足になりながらも毎日患者さんのことを考え、より良い看護ができるようにと必死になっていた日々が、今では良い思い出です。

私は、素晴らしい先生方と心の優しい仲間たちがいるこの大学が大好きでした。いざ卒業となると、その別れに寂しさを感じられずにはいられません。しかし、四年間で学んだ知識や技術、経験を忘れず、本学で看護を学んできたという誇りを胸に、自分に責任を持ち、確かな看護知識や技術はもちろん、患者さんの心に寄り添うことのできる看護師になれるよう、これからも日々精進してまいりたいと思います。

修士課程を終えて

大学院修了生　秋江　百合子

看護管理者としての役割に暗中模索していたとき、副院長兼看護部長から大学院への進学を勧められました。今まで、認定看護管理者教育ファーストレベルとセカンドレベルの受講はしていいたものの、大学院のカリキュラムを見て、新たな学びができ、きっと今後の糧になると思い進学を決意しました。

しかし、実際には、仕事と学業の両立は想像以上に大変でした。1年目は、授業の準備、プレゼンテーション、課題レポートなどに追われて過ぎました。専攻や施設、年代を超えての仲間とのディスカッションは良い刺激になりました。2年目になると、時間を惜しんで通勤の間にも文献を読み漁り、研究計画書の完成を目指した日々でした。そして、3年目からは、研究に着手し、研究の進め方、統計、そして論文の書き方を、指導教員の方々に懇切丁寧にご教授していただき、修士論文を書き終えることができました。大学院で、研究の手法、論文作成を学べたことは、看護専門職としての広い視野での看護実践能力だけでなく、看護を概念化するという研究的な能力を少しだけですが養うことができました。今後も、仕事をしながら可能な限り研究を継続していきたいと思っています。

ここまでたどり着けたのは、理解ある副院長兼看護部長や副部長の方々、係長、そしてスタッフの協力のお陰だと心底感じています。また、いろいろ相談し支え合った同期生、そして大変お世話になった先生方に深謝申し上げます。

新入生へのメッセージ

学長　鎌倉やよい

新入学生のみなさん、ご入学おめでとうございます。本学は、昭和16年に始まる75年の歴史のなかで、平成16年4月に日本赤十字社中部ブロックの看護教育拠点校として開設され13年目を迎えます。平成22年4月には大学院修士課程が、本年度から博士後期課程が開設されました。本学は着実に看護実践者、看護学教育者、看護学研究者を育成する体制が整ったといえます。

さて、看護学を考えるとき、ナイチンゲールの「看護とは、生命力の消耗を最小とするよう生活を整えることである」との言葉を心に浮かべます。ナイチンゲールは、傷病兵の病床環境を整えることで死亡率が激減したことについて、当時の統計学を駆使してデータで示し、環境改善を実現したことが残されています。まさに、暖かい心と冷静に観察する力、判断して実行する力です。先の言葉は現代にも通じ、看護師は「医療を必要とする人々の生活を援助する」のです。

看護学はとても魅力的な学問です。看護の基盤となるものは、患者と看護師との相互作用による人格的世界です。赤十字の人道精神とも重なりますが、教養教育を学び、豊かな人間性を磨く努力がとても大切です。次に続くのは、問題を論理的に判断し解決に導く論理的世界です。専門知識を学び、知識に裏付けられた判断力を磨くことが重要です。これらに加えて、安全で安楽な看護技術を習得して初めて、看護を提供することができます。人間力、問題解決能力、熟練した技術力によって、皆さんは「看護することの喜び」に出会うことができると思います。

また、「学ぶ」ということは、正解を教えてもらうことではなく、なぜだろうと疑問の目を向けて、真実を求めて自ら確認するプロセスです。問題に取り組んで、自ら答えを見出す努力を続けることであり、柔軟に真剣に考えることそのものに意味があるのです。

新入学生の皆さんは、ここから看護への道が始まります。大学卒業時、大学院修了時のご自分の姿を思い描いてください。入学は到達点ではなく出発点です。卒業、修了の向こうには、皆さんが活躍できる医療の世界が広がっています。皆さんが、これから努力を重ね、大きな夢を実現させることを願っています。

理想の看護師を目指して

看護学部新入生　大澤　由意

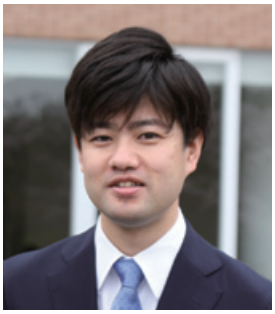
私は広い視野を持ち、様々な立場からものごとを考えることのできる看護師を目指しています。そのように考えるようになったきっかけの一つに、障がい児と触れ合うボランティア活動に参加したことがあります。この経験を通して多くの人と関わることの楽しさと難しさ学びました。いろいろな人の考え方や気持ちを知ることで刺激を受け、自分の視野が広がりました。このときから、人と関わり心のケアをする仕事に興味を持ちました。

看護師には、専門的な知識や技術だけではなく、柔軟な思考も求められます。また、患者さんや周りの方々と接する際、思いやりや人間性も重要です。現在も多くの国や地域で真摯に活動なさっている赤十字の方々の姿を拝見し、このことをより強く感じます。私はこれから始まる大学生活で、医療技術を身につけると共に、同じ夢を志す仲間や先生方、地域の方々と積極的に交流し、自分の理想とする看護師に近づくため努力していきたいと思っています。

私は今まで多くの方々に支えられてきました。その方々に恩返しができるよう、日本赤十字豊田看護大学での一日一日を大切に過ごしていきたいと思います。

大学院進学について

大学院新入学生　鳥居　千洋



私は平成21年に日本赤十字豊田看護大学看護学部を卒業してから7年間手術室看護に携わってきました。その中で手術室看護師の役割や在り方について深く考えたいと思うようになり大学院への進学を決めました。特にチーム医療の発展のため欧米のコメディカル制度や、今後日本でも増加するであろう特定看護師について勉強したいと思っています。また、欧米をモデルケースとして看護師の業務拡大についての研究をして手術室看護師のキャリアアップに繋げられるようにしたいと考えています。

大学院進学に伴い仕事との両立や学費の面等で悩みもしましたが、家族や職場の方達の理解や支援もあり、今は期待に応えたいという気持ちが強いです。大学院生は学業と仕事の両立が大変そうですが、自分にできることを確実にこなし、日本のチーム医療に貢献できる研究をしたいと思っています。

卒　業　式

入　学　式

救護員研修

救護員研修に参加して

母性看護学　野口　眞弓

日本赤十字社は、災害時の救護業務を使命の一つとしており、その使命を果たすために平時から救護機材の整備や救護業務にあたる要員（救護員）の養成を行っています。私は今回、愛知県支部が実施する三日間の救護員研修に参加する機会を得ました。救護斑は通常、医師１人、看護師長１人、看護師２人、主事２人の６人で編成され、自己完結型の活動を行うため、医薬品や医療資機材のみならず食料、衣類、寝具等も装備しています。今回の研修では、現場救護所活動のシミュレーション、災害拠点病院支援活動や国内型緊急対応ユニット（dERU）で医薬品や医療資機材を使用した救護所運営の実働訓練を行いました。本学の体育館での一夜の野営を含む実動訓練は、進むにつれて難易度が上がり、チーム全員が協力して何とかやり遂げました。「ヘルメットがよく似合う」とほめられ(？)ましたが、実際にはヘトヘトでした。あらためて救護活動の大変さと訓練の重要性を実感しました。

この度発生した「平成28年熊本地震」において、愛知県内の赤十字施設の救護班及び本学の職員が被災地にて支援活動を行っています。被災された方々に心よりお見舞い申し上げるとともに、一刻も早い復興をお祈り致します。

研究の窓

研究も臨床も正直に、そして誠実に

専門基礎　上村　治

昭和50年、私が京都大学理学部（数学）の4年生の時に就職活動の甲斐なく就職を断念し、卒業と同時に名古屋市立大学医学部に入学、結局小児科医となり飯の食いっぱぐれなく還暦を通り過ぎました。優れた臨床医になることだけをめざして働いてきましたが、縁あって平成27年春から、当大学の専門基礎の教授として赴任することになりました。

昔やっていた数学がちょっとだけ役に立ったのは、人生を通して2回あります。一つは、日本人の子どもたちの腎機能（糸球体濾過量）を評価するための推算式を作成したことで、今全国で使ってもらっています。もう一つは、診断と治療社から「腎臓病小児のマネジメント―実践のための数学的アプローチ」という本を2011年に出したことです。今年2016年7月に第51回日本小児腎臓病学会を名古屋で開催するのですが、それに間に合わせてこの本を改訂する予定です。

将来立派な看護師さんになってもらうために言いたいことがあります。これは、研究の場でも、臨床の現場でも、ひとたび医療者になった以上必須のことで、私が大切にしてきたことなので、覚えておいてくださいね。一つは、いつも患者中心であることです。研究でさえも患者にとって役に立たないものはやる意味はありません。もう一つは正直であること、この正直の意味は誠実であるということで、特に自分をごまかさないことです。失敗するようなことがあっても、ちゃんと自分の責任であることを言えるような看護師さんになって下さい。

Academic Library

ナース：ナイチンゲールが教えてくれたこと

図書館司書　中尾　明子

今回紹介するのはDVD「ナース：ナイチンゲールが教えてくれたこと」。アメリカの看護師120人にインタビューしたドキュメンタリー映画である。

小児がん患者に向き合うキャスリン。ある日は病院で子どもを看取って帰宅する。またある日は子どもが元気になった姿を見て、薬を与えたり抱きしめてあげたりしたことが回復につながったんだと、報われた気分になり達成感を得る。

死に向かう高齢者の旅立ちを見届ける高齢者施設のジョアン。気分が塞ぐのでは、と思いきや「人間の永遠の旅立ちを見届けられる看護の仕事はかけがえのないもの」と言う。

スーパーマン風のTシャツを着てレゴのライトをぶら下げた小児病院のジェイソン。子どもたちの緊張をほぐすためだが、それだけではない。「子どもたちが人間の尊厳と敬意を取り戻せるかは我々の手にかかっている」と話す。

心が震えるようなエピソードもこの他にたくさん語られるが、学生を育てる学部長アンの心意気や針刺し事故の予防法案を成立させたカレンなど、字数の限られたここではすべてを紹介できない。是非、図書館内や自宅で鑑賞してほしい。通奏低音として流れているのはナイチンゲールから受け継がれてきた看護師の誠実さと誇りである。字幕対訳パンフレットも訳のうまさが光っている。

そして日本語に訳された副題も素敵だけれど、原題も素晴らしい。Nurse: If Florence could see us now.

Information

平成28年度入学試験結果

学部　　入試区分	定　員	志願者数	受験者数	正規合格者数	実質倍率	入学者数
一般入試	50	415(31)	410(31)	141(11)	2.9	62(4)
センター利用入試	5	220(19)	220(19)	72(2)	3.1	10(2)
高等学校長推薦入試	30	43(7)	43(7)	30(3)	1.4	30(3)
日赤中部各県支部長推薦入試	30	30(0)	30(0)	29(0)	1.0	29(0)
社会人特別選抜入試	5	4(1)	4(1)	4(1)	1.0	4(1)
計	120	712(58)	707(58)	276(17)	2.6	135(10)

大学院　　入試区分	定　員		志願者数	受験者数	正規合格者数	実質倍率	入学者数
大学院入試（修士課程）	前期	10	4(1)	4(1)	4(1)	1.0	3(1)
	後期		4(1)	4(1)	4(1)	1.0	4(1)
大学院入試（博士課程）	2		2(0)	2(0)	2(0)	1.0	2(0)

※（　）内は男子学生数再掲。倍率は小数点以下第二位を四捨五入。
大学院入試（博士課程）定員は北海道・秋田・広島・九州と本学合わせて計10名。
平成28年度の本学定員は２名。

上半期公開講座のご案内

領域	日　時	講　座　名	内　容	定員
母性看護学	平成28年6月25日(土) 13:30～16:45	シリーズ　不妊を学ぶ ～私たちらしい選択に向けて～	不妊に悩んだご夫婦が納得のいく選択をするためには、お二人の対話が必要になります。ご参加いただく皆さまのこころのサポートとなり、「子どもをテーマにご夫婦で語り取り組む」ことに役立つ好機となればと願っています	30名

いとすぎ祭&オープンキャンパス

○第13回いとすぎ祭

開催日時：平成28年５月21日（土）
場　　所：本学
内　　容：講演会「特別養子縁組の現状とアタッチメント形成の重要性」
講　師　萬屋　育子氏（NPO法人とCAPNA理事長）入場無料
模擬店、ステージショー、ヘルスチェック、フリーマーケット、献血　他

○オープンキャンパスmini

開催日時：平成28年５月21日(土)　＊いとすぎ祭と同時開催

○オープンキャンパス2016

開催日時：①平成28年７月23日（土）10：00～15：00
②平成28年８月18日（木）10：00～15：00
参加方法：ホームページの申込みフォームからお申込み下さい（順次公開）
もしくは企画・地域交流課　0565-36-5228　まで

平成28年度新任教員

学　長	鎌倉やよい	
教　授	森田　一三	専門基礎
教　授	三木　研作	専門基礎
准教授	大谷喜美江	公衆衛生看護学
講　師	鈴木　寿摩	一般教養
講　師	長尾佳世子	赤十字看護学
助　教	西村　淳子	基礎看護学
助　教	小山　順子	成人看護学

助　教	橋本　　茜	成人看護学
助　教	浅田　優也	成人看護学
助　教	金岡　哲二	老年看護学
助　教	廣田　直美	公衆衛生看護学
助　教	松田　優子	在宅看護学
助　手	安達　亜希	基礎看護学
助　手	酒井　　梓	基礎看護学
助　手	福田　裕一	老年看護学

平成28年度新任職員

学務課教務係長	小島　裕子
学務課学生・キャリア支援係長	野崎　邦子

編集後記

「平成28年熊本地震」で被災された皆様に、心よりお見舞いを申し上げます。恐怖や悲しみと共に今も9万人が避難生活を強いられているなか、被災地の皆様の暮らしが少しでも改善に向かうことを願っています。

さて、若葉芽吹くこの時期、新入生の皆さん、生活環境の変化が心や体に影響を与えていませんか？心身の不調を感じたときには、早めに相談をしましょう！

「いとすぎの丘」vol.23をお届けいたします。本号では、新学長のご挨拶、卒業式・入学式、救護員研修、研究の窓などについて紹介しております。ご執筆をお引き受けいただいた皆様に感謝申し上げます。今後も大学のいきいきとした活動を発信してまいりたいと思います。

いとすぎの丘　Vol.23

発行日／2016年5月
編集・発行／日本赤十字豊田看護大学
広報・公開講座委員会、企画・地域交流課

〒471-8565　豊田市白山町七曲12-33
TEL 0565-36-5228　FAX 0565-36-5256
E-Mail　kikaku-ka@rctoyota.ac.jp
HP　http://www.rctoyota.ac.jp/